

「遊び」が変える高齢者の未来

横澤樹

薄暗い空間の中に数台の雀卓とスロットマシン、高級感のある皮ソファ。まるでオシャレなバーに来たような感覚。ここは日本エルダリーケアサービスが提供する、今年の1月に横浜市に建設された、高齢者のためのデイサービス施設（高齢者が日帰りで利用できる介護サービス）、デイサービス・ラスベガスだ。この施設が生まれたのは、同社の社長がアメリカのカジノの都、ラスベガスを訪れた際に、高齢者たちが楽しそうにカジノをする姿を目にし、「自分もこんな老後を過ごしたい」と思ったのがきっかけだそう。

日本では高齢化が急速に進行している。厚生労働省によると、2011年9月末時点での特別養護老人ホーム（特養）の数は5,953棟。入所者は420,827人で、ほぼすべてが満室。一方、特養の入所希望者は421,529人。単純計算で、現状の倍の受け皿が必要となる。

そんな中注目を集めているのはアミューズメント的要素を利用して高齢者の介護の予防を促そうという取り組みだ。デイサービス・ラスベガスでは疑似通貨「ベガス」を利用し、高齢者がカジノ、ブラックジャック、バカラ、スロット、カラオケなどバラエティに富んだゲームを楽しむことができる。それにより脳が活性化され、またゲームを楽しむ過程で生まれる「うれしい」「くやしい」という感情が脳によりよい刺激を与えるという。

「リハビリというよりもゲームをしているので自然と笑顔が増えるし、ルールを教えあうなど、ゲームそのものがコミュニケーションの場になっている。」そう話すのは日本エルダリーケアサービス業態開発本部の水野文媛氏だ。この施設の最大の特徴は「笑顔」と「コミュニケーション」の二つを提供できることだ。彼らはこの2つが介護予防における最重要ファクターであると考えている。また男性の利用者が多いことも注目すべき点だ。通常のデイサービス施設とは異なり、当施設の利用者の男女比は半々。男性高齢者を引き付ける魅力は施設のスタイリッシュさだという。ゲームの前に行われる運動もレディー・ガガの『Born this way』に合わせて行われる。「ほかの人に自慢できると言っている利用者の方も多いですよ」と水野氏は語る。

麻雀を楽しむ77歳の男性は、「やる内容が限られているほかの施設とちがって趣味に合わせて色々楽しめていいよ。ボケ防止にもなるしね。」と話す。また、リハビリ施設にも通う80歳女性は「ここに来ると嫌なことが忘れられる。職員の人みんなやさしいし何より皆さんと友達になれました。」と笑顔を見せる。

今後、当社はこの施設を備えた住宅型有料老人ホームを5つ開設する予定だという。また他社にアミューズメント施設のノウハウを売りだしていくことも検討しているそう。高齢化社会の中で、高齢者向けアミューズメント施設は「介護の予防」という重要な役割を担っていくのだろうか。「笑顔」が最大の介護予防、取り組みはまだ始まったばかりだ。

Written by 横澤樹
Edited by 細江美月

【編集後記】

今回の取材を通して、高齢者が遊びを通して笑顔になること、そして互いにコミュニケーションを取り合うことが高齢者の介護予防を実現するための画期的な方法であると感じた。デイサービス・ラスベガスで、麻雀を楽しむ高齢者たちが見せた楽しそうな様子は何よりもそれを物語っていると思う。